

氏名	松本 尚美
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 6137 号
学位授与の日付	令和 2 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 社会環境生命科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Breastfeeding and risk of food allergy: A nationwide birth cohort in Japan (母乳と食物アレルギーリスク-日本の大規模出生コホートをを用いた解析-)
論文審査委員	教授 神田秀幸 教授 増山 寿 准教授 岡田あゆみ

学位論文内容の要旨

母乳が食物アレルギーに対して予防的に働くかは結論が出ていない。一方、乳児湿疹は経皮感作による食物アレルギーの増悪因子として知られている。本研究では乳児湿疹の修飾作用に着目し、母乳の食物アレルギーに対する予防効果について検討した。厚生労働省の 21 世紀出生児縦断調査を用いて、後方視的コホート研究を施行した。46616 名の対象児を栄養方法により 3 群 (完全母乳栄養群、初乳のみを含む混合栄養群、完全人工栄養群) に分類した。観察期間を生後 6 から 18 か月あるいは 66 か月と設定し、観察期間内に一度でも食物アレルギーのために外来受診した場合をアウトカム陽性とした。対数二項回帰解析を用い潜在的交絡要因を調整した。更に、乳児湿疹の有無により層別解析も施行した。乳児湿疹のある群では、人工栄養群と比較して初乳のみを含む混合栄養群で食物アレルギーリスクが低下していた。その予防効果は母乳期間が短いほど顕著であった。一方、乳児湿疹のない群においては、完全母乳栄養は食物アレルギーリスクを上昇させていた。

論文審査結果の要旨

母乳栄養は、児の感染症や免疫系に対して有効な効果を持つことは知られている。しかし、母乳栄養による児への食物アレルギーに対する効果については議論されており、一定の結論が出ていない。また、乳児湿疹は経皮感作による食物アレルギーの増悪因子としてよく知られている。

そこで、申請者らは SGA の乳幼児期の健康面に及ぼす影響を、全国調査である 21 世紀出生児縦断調査を用いて後方視的コホート研究により、母乳栄養と児への食物アレルギーの関連について、全体の検討に加え、乳児湿疹の有無に区分した検討により、明らかにすることを目的とし、研究を行った。

乳児湿疹のある群では、人工栄養群と比較して、初乳を含む混合栄養群で食物アレルギーのリスクが低下していた。その予防効果は母乳期間が短いほど顕著であった。一方、乳児湿疹のない群においては、完全母乳栄養群では食物アレルギーのリスクを上昇させていたことを明らかにした。

委員からは、他のアレルギーを含めた検討あるいは他のアレルギーの発症への影響について質問がなされた。喘息やアレルギー性鼻炎との関連について検討したが統計的有意差はみられず、乳児湿疹でのみ結果が得られたことについての検討、また他のアレルギー性疾患がこの時期に確立しにくいという特性について考察し、回答がなされた。発表は的確で、周辺知識の学習も十分になされていた。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。